

# 駒ヶ根市議会意見交換会集約シート【令和3年度】

[教育民生建設委員会]

## (会議の流れ)

問題点の提起 → 目標の共有 → 参加者が納得 → ゴールの共有 → 何かを得られ、集まったかいがあったと感じる

### 趣旨

駒ヶ根市議会基本条例前文及び同条例第17条に基づき、「開かれた議会」として市民との情報共有及び市民参加を推進し、多様な意見を集約する中で、政策提言・政策立案につなげるよう努める。

- ・市民への議会報告を通じて、議会活動を理解していただくとともに、市民の皆様から生の意見を聴くことで、市の事業発展につなげて行く。(理論的にしっかり議論を噛み合わせ論点を絞り込む)
- ・活気ある意見交換の場にし、本質をついた議論を導く。(目的を共有し、協働意欲の醸成を導き、問題解決につなげる。)

テーマ	子育ての悩み、困っていること 相談窓口への希望
委員会	教育民生建設委員会
日時	令和3年10月6日(水) 午前10時30分～
会場	保健センター 乳幼児指導室
対象	子育てサークル 代表者
意義(なぜ)	子育てに関する悩みをお聞きし、現状を認識するなかで、妊娠・出産・子育て期の切れ目のない支援について、今後どのようなことが期待されているのか把握する。また、子育てサークルでは経済的な不安を抱えた人やDVなどの把握や該当者がいた場合にはどのように対応しているのかをお聞きする。
何の(誰の)ために	保護者同士が知り合い、情報交換や子育ての悩みを相談し合える場となる子育てサークルの活動から、子育て中の親子が孤立せず、地域や支援機関と繋がっていくためにはどうあるべきかを考える。

## 意見集約区分

- ①内容確認にとどめるもの                      ②常任委員会で調査・研究するもの  
 ③市に回答を求めるもの（重要なもの）      ④市へ伝達するもの

出された意見	区分
【場所や空間や移動に関して】	
子どもが安全に遊べる場が少ない。宮田村総合公園ふれあい広場のような、駐車場があり、子どもを連れて安心して遊ばせられる公園がもっと欲しい。	④
まあるくなあれ♪などの公共センターを、より利用しやすい場にして欲しい。	④
学校区に最低でも一つのひろば（まあるくなあれ♪やきっずらんど）を設置して欲しい。公民館など、少人数ずつでも集える場所の提供をして欲しい。伊那市の上の原子育て支援センターなどは利用が少人数でも「そこにあって開いている」。このことが大事だと考える。	④
土日祝日にのひろば（まあるくなあれ♪やきっずらんど）を開所して欲しい。土日祝日しか利用できない家庭もある。父母一緒に利用することのメリットは大きい。母親だけでなく、父親や祖父母にも交流の場が必要。（日曜日の伊那市のひろばや公園に駒ヶ根から行っている父親からも要望を聞く。）	②
長寿荘を会場にサークル活動をしているが、駐車場がすぐにいっぱいになってしまったり、施設の老朽化でガラスにヒビが入っていたりする。夏はエアコンがなくて暑く、冬はストーブが焚かれていてヒヤヒヤする。	②
安全面が確保できない施設しかないのであれば、保健センターの乳幼児指導室が空いている時は貸して欲しい。場所の確保はみんな苦労している。	②
保育園の園舎が老朽化していたり、雨が降ると駐車場がぬかるんでいたりする。そうした整備にお金をかけて欲しい。	④
親が送迎できない子どもも中間教室に行かれるように、送迎はできないか。	②

## 意見集約区分

- ①内容確認にとどめるもの                      ②常任委員会で調査・研究するもの  
 ③市に回答を求めるもの（重要なもの）      ④市へ伝達するもの

出された意見	区分
ハンディキャップを持った子どものいる家庭への移動支援が必要。介護の必要な人や障がい者手帳を持った人たちは福祉有償運送が使える。障害者手帳を持っている子どもたちの利用も可能にして欲しい。	②
【市の事業などに関して】	
ファミリーサポート事業の時給700円は安い。せめて最低賃金はいただきたい。支払う側の料金はそのままで、差額を市で補助して欲しい。	②
ファミリーサポート「ぐりとぐら」では、20年前の最低賃金600円のまま、これまで子どもを預かってきた。預かる側にはせめて850円を支払いたいが、支払う側からは850円を貰いたくないため、差額を埋めるために企業などにも働きかけてカンパを募ってきた。市から差額を補填して欲しい。	②
子育てサークルの企画運営には会場費が必要で、子育て中の親がお金を出して参加するのは大変である。子どもは地域の人たちと触れ合って社会に慣れていく。市でぜひ支援して欲しい。	②
ひろば（まあるくなあれ♪やきっずらんど）や託児、ファミリーサポートの利用料金を無償化して欲しい。核家族世帯や孤立しがちなお母さんに負担なく子育てのできる状況やちょっと息ぬきをしてリフレッシュ出来る時間を気軽に取れる状態になってほしい。すぐに無償化することが難しいのなら、何回かお試して利用出来るチケットの配布などからでもお願いしたい。	②
子育てサークルで開催したアレルギー講演会時に、金銭面の理由で料金を払っての託児ができず、会員で託児した。会員も講演会を聞きたかったが、託児で聞けず、勉強ができなかった。市からの援助が欲しい。	④
アレルギーを持つ子の通院時に、上の子や下の子を預かってもらいたい。続けて通院する必要がある場合、通院時の一時預かり、託児は無料か低料金にしてもらいたい。	④
アレルギーの胃腸炎、食道炎（好酸球胃腸炎、食道炎）の子どもは軽症でも、高校卒業まで薬代無料というような特例扱いはできないか。好酸球胃腸炎、食道炎は軽症の場合、難病指定されない。喘息やアトピーがひどい子どもやエピペンが必要な子どもも薬代がたかさかかかる。	④

### 意見集約区分

- ①内容確認にとどめるもの                      ②常任委員会で調査・研究するもの  
 ③市に回答を求めるもの（重要なもの）      ④市へ伝達するもの

出された意見	区分
0歳～中学校卒業までの子どもの医療費について、無償化して欲しい。	④
産前産後保育の延長と無償化をして欲しい。	④
母親が病気等で育児ができないときに、すぐに預けられる場所や家事代行サービスが欲しい。	②
未満児をどんどん預かる政策は、親の子育て力を奪い、親子の愛着形成が上手くできなくなると感じる。子どもがいるからこそ楽しめる企画を考えたり、未満児を家で育てている家庭への支援を手厚くしてはどうか。	②
時短や育休を取りやすい環境づくりをして欲しい。	①
学童保育の拡充をして欲しい。特に、長期休み中を拡充して欲しい。	②
発達支援が必要な子どもへ、より親身な対応をして欲しい。	②
コロナ禍により中止となった健診のフォローが不十分であった。「不安のある方は、市までご相談ください」というだけでは判断基準がなく、相談しにくい。	④
アレルギーのある子どもへの給食をアレルギー対応のスペースで作って欲しい。	④
アレルギーを持つ子の給食対応は、今年度から油でも反応する子はお弁当となった。以前と同じように揚げ物だけは持参するようにはできないか。	④

## 意見集約区分

- ①内容確認にとどめるもの                      ②常任委員会で調査・研究するもの  
 ③市に回答を求めるもの（重要なもの）      ④市へ伝達するもの

出された意見	区分
お父さん、お母さんの気持ちを聞いてあげられれば、ストレスがたまらないのではないかと。悩みを話せるような親子関係であれば良いが、代わりに聞いてあげられる人がいれば良いかなとも思う。	②
妊婦さん同士の意見交換や話す機会がない。マタニティヨガ教室や先輩ママとの交流の場があれば良かった。	②
コロナの影響や文化センターと公民館の統合があり、託児付きの講座がなくなった。託児付き講座は、参加することで日頃の疲れを癒し、改めて子育てに気持ちを向けることができる貴重な時間であり、また仲間づくりの場でもあるので、是非復活していただきたい。	②
以前に文化センターで行われていた託児付きの講座や市役所で行われていたママビクスやママカフェなどを再開して欲しい。とてもありがたい助けられた講座や子育て支援事業だと思う。母親が心身ともに健康であるための場所を考えて欲しい。	④
現在駒ヶ根市では、各文化サークルやスポーツ少年団などバラバラに活動しているが、乳幼児&ママ～年配の方までできる、スポーツや文化を担う「伊那市総合型地域スポーツクラブ」の様なまとまった制度が欲しい。特に園以外での、幼児のスポーツ&文化体験の場が少ないように感じる。	②
文化的な活動に対する予算は削られがちだが、特性が強く学校に通えない子どもたちにとって、学校から離れた活動も大事。	②
都市との教育格差解消(勉強だけでなく文化教養分野でも)に努めるべく、子どもたちのために予算配分をお願いしたい。エル・システムの継続を希望する。廃止された場合の受け皿が地域になく、コロナ禍でも頑張ってきた子どもたちの努力が無駄になってしまう。	②
伊南子ども劇場は、地方に住んでいても親子で良質な文化に触れられるようにとの思いで、この34年間、年間6例会ほど、駒ヶ根の地を中心にプロの舞台を東京などから呼んできた。また、年に一回チケット売りをし、共催金をいただいて駒ヶ根市総合文化会館と協力して、継続的に共催事業を行ってきた。ところが、2022年度は共催金が支払われるか未定と言われた。今後も持続的に子どもたちが良い文化と出会えるよう、引き続き現状の共催金をお願い致します。	②

## 意見集約区分

- ①内容確認にとどめるもの                      ②常任委員会で調査・研究するもの  
 ③市に回答を求めるもの（重要なもの）      ④市へ伝達するもの

出された意見	区分
市内の学校の行事予定がバラバラであり、イベント等日程を決めるのに非常に苦労している。特に運動会や校内作業は春と秋に分散されており、子どもたちの足並みが揃わない。学校ごとに決めるのではなく、教育委員会が市内で統一するよう指導することはできないか。	④
中高生と赤ちゃんとのふれあい体験の実施をして欲しい。コロナ禍で難しいとは思いますが、近い将来、学生たちが健やかに子育てしていくには必須だと思う。	④
いつでも相談できる相談しやすい場所があり、相談しやすい人がいてくれると良い。	④
設置している相談窓口で相談が来るのを待っているだけでなく、アウトリーチ型の相談支援の方法を模索して欲しい。民間や地域と連携することで、SOSを発信しやすい環境作りができないか。	④
母子手帳交付時に入園の説明も若干していただけると有難い。3月から入園するには、前年の園説明会に出席していなければならないが、出産から間もないと入園のことまで頭が回らず、必要な時になって困る。	④
こまかっぱの「チャイルドインカー」のステッカーは母子手帳交付時に渡しても良いのではないか。（今は出生届時）	④
ソフトの充実が必要だと感じるが、見えないものの必要性をどうやって伝えたいのかに悩む。伊那市は、今年度に入って中間教室の開設時間や低所得の子育て世帯への給付金など、大切だが見えにくかった部分へ力を入れてきていることが報道等からわかる。	①
市内の観光施設等利用時における、子育て(市民)優待制度ができないか。「駒ヶ根市に住むとこんな良いことがある」という若い世代へのアピールが必要だと思う。（現在は宮田と南箕輪が人気）	②
ふれあいセンターや地域交流センターなどの施設の鍵の管理について、区長さんなど個人宅に借りに行くのに抵抗があるという、お母さんたちの意見があった。時代の流れもあるので、鍵の取り扱いについてご一考願います。	④

## 意見集約区分

- ①内容確認にとどめるもの                      ②常任委員会で調査・研究するもの  
 ③市に回答を求めるもの（重要なもの）      ④市へ伝達するもの

出された意見	区分
北町信号交差点の地下道は老朽化しており、防犯や安全上危険と感じる。また、ベビーカーや自転車が通行できない。廃止して、スクランブル交差点化を希望する。	④
教育委員会、子ども課が責任を持って対応して下さるのは良い事だが、縦割りでの対応が継続的な支援を必要とする家庭には相談場所が不明確になり、たらいまわしに合うことで孤立している。市の子育てイメージは何歳までを指すのか。市民に分かるように表記して欲しい。	②
前例踏襲、自動反復、形式主義、思考放棄、リスク回避傾向が市の言動から感じられる。職員の中には、改善しようと努力をされている人もいる。その人の行動を批判するような組織体制を改善して欲しい。また、障害者差別解消法の法律から文部科学省所管事業分野の「合理的配慮の提供」について市職員の研修を毎年、継続的に行って欲しい。	④
不登校の子どものために、仕事を辞められるお母さんがいらしゃいます。そうすると、生活は当然のこと苦しくなってしまう。自宅での仕事があると嬉しい。	②
駒ヶ根市は子育て全力応援宣言をし、幼児期に対しての対応はとても良いと思う。それにプラスして、それ以降のフォローもあればもっと心強い。ある程度子どもが大きくなると、ここから離れていってしまう人もいる。その先も、応援があると嬉しい。不登校の問題は、引きこもりや若者自殺問題と繋がっている。誰がなってもおかしくないと言われている。早期の対応が必要になると思う。困っている時こそ、寄り添う駒ヶ根市でいてくれたら安心して子育てができると考える。	②
不登校の子どもさんは特性があることが多いが、見た目ではわからないグレーゾーンの子が多い。障がい者となれば対応をしてもらえるが、なんとか頑張り続けて思春期に限界を感じてしまうのかなと思う。そういう子どもたちにも手を差し伸べてもらいたい。そして、その親御さんたちの気持ちが楽になること。親の気持ちは、子どもに繋がっていると感じる。親御さんのケアとサポートで、不登校の長期化を防げると思う。	②
こども食堂の活動を通して実感している事は、幼児子育て家庭よりも、中学校以上の子育て世帯が、シングル家庭に限らず共働きの家庭でも経済的な困り感がある。生理用品の無料配布を開始したが、食品配布よりも人気がある。それだけ家計の中から生理用品を買うことに不自由しているのだと感じる。	④

## 意見集約区分

- ①内容確認にとどめるもの                      ②常任委員会で調査・研究するもの  
 ③市に回答を求めるもの（重要なもの）      ④市へ伝達するもの

出された意見	区分
宣言だけでなく、実際に教育委員会の人や議員が子育てサークルの場に足を運んで活動に接し、どういう援助ができるか考えて欲しい。	②
サークル活動の中で、おしゃべりをして、聞いてもらえて、共感してもらえる場所が必要なんだという事を1番感じる。	④
【情報提供や情報入手に関して】	
不登校の子供のサポートに関する情報が当事者になかなか届かない。親の交流会では「自分で調べた」という話を聞く。行政相談に関して学校で聞いても市役所まで来れない人もいる。市報などにも積極的に情報を載せて欲しいし、行政からも積極的に相談に来てくださいと広報をお願いしたい。	④
こまっぷなどのアプリはそれほど使っていない。日々忙しい中、情報入手に不可欠な幼稚園や学校の案内を見るが、それ以上は難しい。	①
てんとう虫の会ではTwitterやFacebookやInstagram等も使いながら情報を共有している。媒体の数が多い方が良い。	①
まねきnekoでは、近隣市町村の同系列の団体から寄せられる有益な情報はホームページやFacebookなどを利用して発信している。	①
妊婦になかなか情報が入らない。	④
駒ヶ根市では子育て全力応援宣言をしているので、市報に子育て全力応援宣言のページを設けるなどはどうか。	②
近隣に身寄りもなく、保育園にも通っていない状況の親子が孤立しやすいと思う。そういった親子にピンポイントに情報発信ができれば良いと感じる。	②



### 意見集約区分

- ①内容確認にとどめるもの                      ②常任委員会で調査・研究するもの  
③市に回答を求めるもの（重要なもの）      ④市へ伝達するもの

出された意見	区分
【子育てサークル同士の連携について】	
市内にサポートしてくれる団体がある、逃げ場があること、年配の先輩たちと知り合えることが良い。	①
子育てサークルの連絡会に市の担当者が参加し、市政に関する情報を貰えると誰かに聞かれたときに答えられる素材があって助かっている。	④
「この人の言うことなら」という対話による情報入手が大事。	①